

「笑顔をとやさず」

四條畷消防署救急隊 消防士長 柳瀬 夏美 (平成18年入職)

たくさんの人に支えられて



体が丈夫で、学生時代体を動かすことを得意とした私は、高校生活で部活動を引退し将来の事を考えていた時、幼い頃から憧れだった消防士になりたいという思いを抱き、その思い一心で、消防士を目指しました。

また、困った時、迷った時、わたしの傍にはいつも手助けしてくれる誰かがいて、これまでたくさん

の方に支えられ、私自身随分救われてきました。人に助けてもらうばかりの私は、次は私が誰かの助けになりたい。誰かの命を救うことで人の役に立ちたいと思うようになり、救急救命士の資格を取得しました。

第一線で働きたい

救急隊は現場から病院までという短い時間で、自分の五感と限られた資器材で傷病者の容態を把握し、最善の処置を施しながら適切な病院まで搬送を行います。医師よりも誰よりも先に傷病者に接触する仕事、正に命の第一線に立つ仕事です。体力ばかりでなく、事故や火災による過酷な現場で、冷静に対処する精神力も必要になります。これまで現場で失われていく命を目の当たりにし、自分の無力さに自信を失いかけたこともありました。しかし、助けることが叶った命、車内の僅かな時間で誕生してくれた小さくとも強い命に触れてきたことで、人の生命力の強さを感じ、それが今のわたしの原動力となっています。



人とのつながりを大切に



誰かの一助になれば…といっても、まだ私は職場でも仲間からの一助を受け、サポートしていただきながら日々奮闘しているところです。大切なのは「人」と「人」。それぞれの特性を生かしながら、人とのつながりを大切に思い合えるこの職場環境を生かし、いつの日か誰かの一助になればと思います。また、大東四條畷消防組合には女性が活躍できる場面がたくさんあります。多彩なフィールドで活躍しながら互いに刺激を受け合い、労い合うことのできる女前な女性消防職員ばかりです。是非私たちとこの職場で、一緒に歴史を刻んでみませんか。